

労働者協同組合による 通所介護と地域活動の運営

エイトバードカンパニー労働者協同組合
代表理事 溝呂木 崇也

I. 自己紹介

- ▶ 1979年3月14日生まれ
- ▶ 2003年 立教大学卒業 社会福祉士取得
- ▶ 2003年～2008年 NPO法人くじら雲 非常勤5年勤務
- ▶ 2008年 専門学校社会医学技術学院卒業 作業療法士取得
- ▶ 2008年～2010年 清瀬リハビリテーション病院勤務
- ▶ 2010年～2024年 草加市立病院勤務
- ▶ 2024年6月 エイトバードカンパニー労働者協同組合
リハビリデイサービス ネスト開業

Ⅱ．設立理由①

～医療の枠を超えて「地域の困りごと」 に寄り添うために～

- ▶ 主要発起人の3人は法人設立前はリハビリ専門職で病院等で勤務。
- ▶ 担当した患者から様々な相談。
- ▶ 地域の共助力を上げれば、多くの人が住み慣れた場所でその人らしく、住み続けられるのではないか。
- ▶ 地域づくりのために法人設立しよう。

おばあちゃんの面倒見てて、勉強も遊ぶ時間もない

郵便物の再配達伝票入ってたけど、どうしたらいいの？

マイナンバーカードの申請方法がわからないけど聞ける人が近所にいない

Ⅱ. 設立理由② ～自分たちで「働ける 場所」を創る決意～

- ▶ リハビリ専門職は2026年には供給過多となり、2040年には需要の約1.5倍の供給数になる見込み。
- ▶ 今後、都市部では、就職競争や待遇の伸び悩みが懸念される。
- ▶ 日本ではリタイアの時期がどんどん後ろ倒しになってきているが、リハビリ職は職務内容的に高齢になって働き続けることが難しい。
- ▶ 供給過多状況では高齢セラピストになった時、就職先がない可能性が高い。
- ▶ 自分たちで将来に渡って働ける場所を確保しよう。

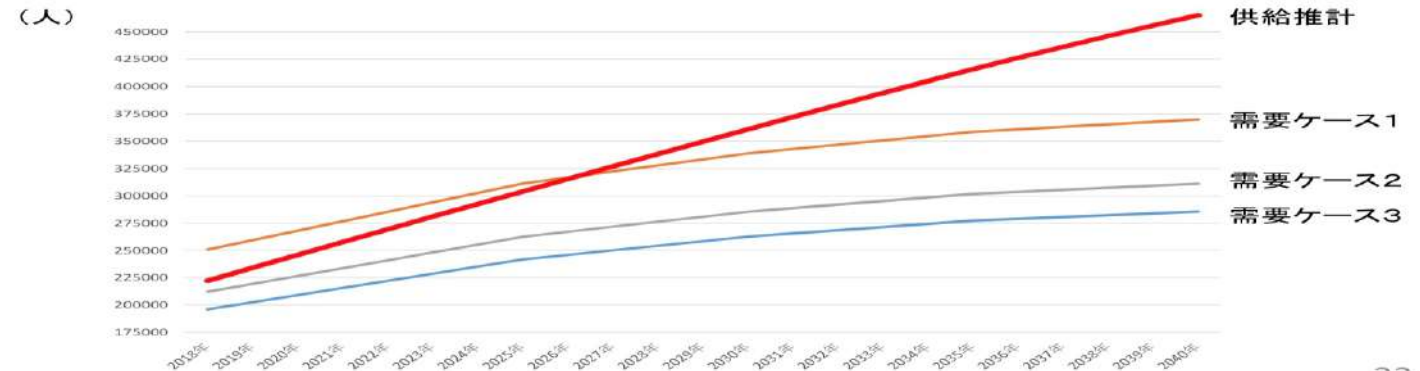
理学療法士・作業療法士の需給推計について(案)

PT・OTの供給数は、現時点においては、需要数を上回っており、2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる結果となった。

供給推計 全体の平均勤務時間と性年齢階級別の勤務時間の比(仕事率)を考慮して推計。

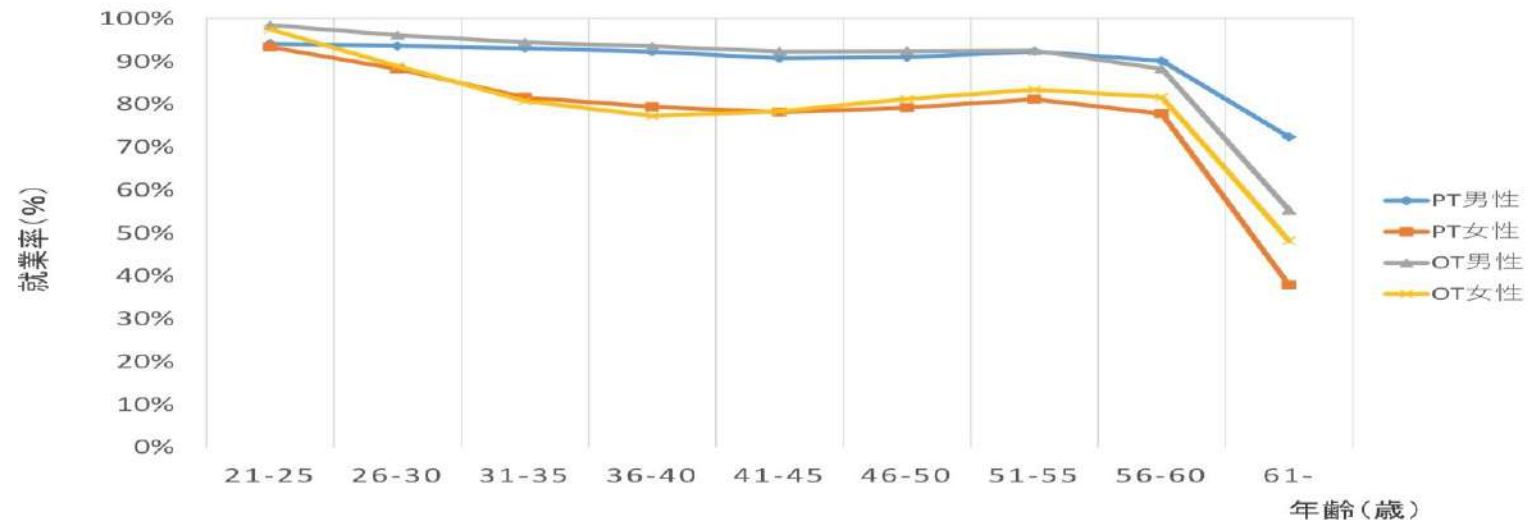
需要推計 ケース1、ケース2、ケース3について推計※

※ 精神科入院受療率、外来リハビリ実施率、時間外労働時間について幅を持って推計



33

性年齢階級別就業率



※2012年～2017年の男女別年齢階級別の協会会員就業率(出典: (公社)日本理学療法士協会 (一社)日本作業療法士協会)

Ⅲ. 法人紹介 エイトバードカンパニー労働者協同組合 ～「自分達にできることをやってみよう」という決意～

▶ 法人名の由来

世界最小の鳥、「ハチドリ」を意味している。

アンデス地方に伝わる「ハチドリのひとしずく」の寓話に登場するクリキンディのように**小さな力でもできることを続けて、地域社会に貢献していこうという決意で集まった**ためにこの名前とした。

▶ ロゴの意味

ハチドリが幸せの象徴の四葉のクローバーを運んでいる。クローバーの中には、エイトバードの「8」と永遠の繁栄を意味する「∞」が描かれている。



IV. 労働者協同組合を選んだ4つの理由 ～組織を強くするヒエラルキーのない理想の形～

- ▶ ① 全員が出資し、全員が経営に責任を持ち、全員が労働に従事するという組織は非常に強いのではないかと思った。
- ▶ ② 業種の制限が少なく、地域の課題解決に様々な事業に取り組むことが可能であると考えた。
- ▶ ③ 病院における医療専門職間のヒエラルキーからの解放を求めた。
- ▶ ④ 一人で法人を設立して、運営していく自信がなかった。

V. 事業展開 ～安定と理想の両立～

基幹事業 リハビリデイサービスネスト



リハビリデイサービス
ネスト

- ▶ 社会・地域に貢献する目的で法人設立を決めたが、介護保険という「安定収益」を基盤に据える現実的な経営判断。
- ▶ 『ネスト』は法人名称が鳥に由来するため、鳥の巣を意味する英語を選んだ。また英語の『NEST』には居心地の良い場所という意味もあることが理由。

VI. 事業展開 ～安定と理想の両立～

保険外事業 地域づくり活動

- ▶ 月1回平日：子供の居場所づくり事業
- ▶ 月1回土曜日：地域の高齢者・子供、デイサービスの利用者を含めたイベント



VII. シナジー：収益事業と社会貢献活動の「呼応」 ～善意の循環～

- ▶ 通所介護のご利用者様が子供の居場所づくりに参加してくれることで、ご利用者様の当法人への愛着が増し、稼働率の上昇に繋がった。
- ▶ 地域のケアマネージャーが地域貢献に共感して下さり、ご利用者様の紹介に繋がった。
- ▶ 結果的に収益性のない地域づくり活動が介護保険事業の収益を安定化させた。

VII. シナジー：収益事業と社会貢献活動の「呼応」 ～地域への影響～

- ▶ 地域の子ども達の高齢者や認知症に対する理解の向上。
- ▶ 高齢者も子ども達も互いに顔見知りになりつつある。
- ▶ 困っている高齢者がいたら、子どもが助ける。1人で不安になっている子どもがいたら、高齢者が声をかける。そのような地域の『共助力の向上』を期待したい。



VIII. 結び

～協同労働（労働者協同組合で働くこと）の価値～

- ▶ 全員の『意見反映』『出資』『従事』を原則としている組織であるため、スタッフ一人一人を大切にした組織となりやすい。
- ▶ 多数決ではなく、「中庸案」を模索するプロセスが組織の心理的安全性を育む。
- ▶ 代表理事の視点としては、役職による傲慢を抑え、仲間の多様な価値観を尊重する姿勢を維持できる。

最後に一言

労働者協同組合という選択は単なる組織形態の違いではありません。

組合員一人一人が出資し、経営を考え、現場で汗を流す。
この「主役」としての誇りが、利用者様への最高のケアと
地域への無償の奉仕を生み出しています。

医療・介護の枠を超え、高齢者や子ども達、地域に住む誰もが自然に助け合える「共助のまち」へ。

エイトバードカンパニーは、これからも寓話のハチドリのように「私たちにできること」を続けて行きたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。

